

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
額小学校	教科一般	OJTの工夫

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1「学年OJTの質の向上」

①週1回の学年会を予定に明記して設定した。教材研究の充実を図ること、児童の情報交換、教室整備・掲示の方法など、あらゆるバリエーションでの学年会を学年単位のOJTととらえて実施した。



教材作成



学力向上の対策



教具の準備

(2) 重点2「校内OJTの工夫」

①校内OJT（各教員の得意分野を生かした講習会等）を実施し、学校教育活動に必要な技術を伝授した。



算数科 板書の3分割



道徳の評価・他教科との関連



三味線講座

- 4月 金沢型学習スタイルの学習会
- 5月 算数の授業の構成、板書の構造化
- 5月 3心円の描き方、運動場整備
- 5月 特別の教科道徳の評価、他教科との関連についての学習会
- 6月 アレルギー症状の対応、AEDの使い方
- 7月 プログラミング授業について
- 8月 夏季研修報告会 レポート発表
- 8月 学力向上について
- 8月 特別支援教育
- 10月 不審者対応
- 11月 体力アップ
- 1月 教育関連データの活用
- 2月 初任研実践発表

②校内研修の啓発、校外研修会の還流を目的として各種通信の発行や、掲示版の活用で見える化を図った。

- ・「ぬかっ人（額っ人）だより」教務
校内研修の成果や感想のまとめ、また、週予定表の裏面を利用して、学級経営や授業力向上に関すること
- ・「おとく！なっとく！道徳！」道徳担当
特別の教科道徳の評価の方法、資料や一覧表の活用、重点の明記、他教科や行事との関連など
- ・「英・エイ・Go!!」英語担当
授業の流れ、クラスルームイングリッシュ、ショートタイムの進め方など、英語に対する教師の姿勢に関わること
- ・「アジェリティUP通信」体育担当
新スポーツテストで課題となった握力の向上をめざして、授業や業間にできる運動を紹介
- ・「若プロジェクトX」若手研修コーディネーター
若手研の計画、実践



＜研修機会の工夫＞
通信を作成・配布
↓
終礼で提案・確認
↓
掲示する

職員室の掲示版

(3) 重点3 「授業整理会の充実」

- ①研究授業整理会において、各教員(特に若手教員)が主体的に参画できるように整理会にグループ協議を取り入れた。
- ②研究の重点の理解を深めることで、各自の授業力向上及び児童の学力向上に寄与できるように、協議に付箋を用いて構造的に捉える方法を工夫した。



付箋を用いて重点の検討



グループ協議の結果発表

2 取組の検証

(1) 学年会を週1回以上行うことを指標として予定に組み込んだ。日々の教材研究や児童の情報交換を含めると週1回以上となった。

学校評価アンケート「学年教材研究会を週1回以上設定して、教材研究に取り組んでいる。」において肯定的な回答が前期100% 後期94.4%。

(2) 英語の指導スキル向上、特別の教科道徳の評価方法等、職員の知識・技能、経験を生かした研修は13回行った。また、研修後の感想をまとめて公開したり、各種研修内容の還流や学級経営、授業力向上に関する通信を発行したりして見える化することは、次に生かせる具体物として若手教員に示せたと思われる。

学校評価アンケート「研修で学んだ方法(発問・板書・対話・掲示等)を日々の指導に生かしている。」において肯定的な回答が前期100% 後期100%。

(3) 研究授業整理会の方法を工夫した結果、若手の挙手、グループ協議の発表など積極的に発言する姿に成果が現れていた。

学校評価アンケート「校内の研究授業・整理会に積極的に参加している。」において肯定的な回答が前期100% 後期94.7%。

3 成果と課題

(1) 学年会では、ベテランが若手に日々の教材、行事、児童理解等あらゆる面においてサポート、示唆をしていた。経験5年以下の職員には、授業力向上という点においても大きな学びの機会となっていた。

(2) 校内の取組に加え、校外の研修の内容や成果を自主的に通信として作成・発行して全職員に還流したり周知したりする動きが見られた。このことは、学校経営の参画意識の高まりにつながっている。

(3) OJTによる若手の育成と組織力の向上の効果は大きいですが、それによって多忙化が進むことのないように工夫することが課題である。

授業研究、板書研究や授業公開、また、セルフチェックを組み合わせることで効率化を図ることや、若手のニーズに応じた校内研修の設定などOJTのマネジメントが必要である。



教育実習生も交えての分科研



全校一斉指導の実践（避難訓練）